



▲吉田寿会の皆さん。この日は吉田ほたる祭りの準備に協力していました。

地域の宝は「子ども」と「森林」 森林教室を支える吉田寿会（吉田地区）

元号が令和となった今年5月31日、林野庁長官から吉田寿会（山田培雄^{やすお}会長、22人）に感謝状が贈られました。平成2年から続く南小学校を対象にした「ふれあい森林教室」への協力に対する感謝です。平成を通じての活動は今年、30回の節目を迎えます。

毎年秋に開催される森林教室は、吉田地区に広がる国有林を舞台に林野庁島根森林管理署が企画。地元の南小学校

の児童を「安寿の森吉田（上吉田町、8ha）」に招き、植林や木工教室、ホダ木づくりなどを体験しながら一日を過ごします。この活動から児童に森林の大切さや働きなどを伝えるものです。寿会は同管理署と協定を締結し、この教室を全面的に支えています。

ひと言で協力と言っても当日ばかりではありません。2週間前から現地を確認し、重機を使った林道整備、歩道の草刈り、植林場所の地ごしらえなど、児童が安全で楽しく過ごすことができるよう念入りに準備を進めます。当日は、女性会員が中心となってトン汁を用意し、山頂で児童や署員に振る舞います。

寿会は半数以上が75歳以上。会員減少と高齢化が続いています。それでも30年も続けられたことを山田会長は、「寿会の皆さんは全員が農家で、森の恵みを受けてきました。だからこの教室には人一倍関心があると思います」としつつ、「逆に高齢となって山から遠ざかっていた人にとっては、山に戻る良い機会



▲国有林内にある東屋でトン汁の準備をする寿会のみなさん。昼食時に児童や関係者が頂きました。

になつていくかもしれないね」と語ります。

寿会の年間予定の中で大きな行事の一つである森林教室。準備はたいへんですが、これからも協力していくとのこと。山田会長は「近所の知人の孫さんが来ると会員内でも話が弾みます。皆さんはこの行事を楽しみにしていますよ。私自身も山の上でのひとは最高だと思っています」と、他の行事に比べて参加率が高いことを明かします。

「吉田地域の宝は二つあります。子どもたちと森林です。この二つを結びつける森林教室に、高齢者も関わる事ができるのが私たちにあっての宝です」とうれしそうに話します。

編集後記

安来市の人口と世帯数 R1.5.31現在

人口合計 / 38,655人
(男:18,563人 女:20,092人)
世帯数 / 14,398世帯

▼特集の中では紹介できませんでしたが、JR安来駅や第一中学校、広瀬中学校の校舎の一部には安来市産の木材が使われています。香りが良く温かみのある木材。駅の利用客や中学生は、安来の木でリラックスできていることでしょう。私たちの身の回りでは安来の木材が数多く活躍しています(旬)

▼放課後児童クラブへ取材に行ったときのこと。撮影の理由を先生が1〜3年生に説明しました。するとほとんどの児童が「どげなかね」を知っていました。そのため撮影はスムーズに進みました。小学生が見ているの？と、小学生が知っているの！という二つの気持ちがあっさり、素直に喜びました(6)



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
- 自治会宛の発送等につきましては、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。